

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970200091
法人名	社会福祉法人 ひかりの里
事業所名	グループホームめだかの学校
所在地	〒 405-0011 山梨県山梨市三ヶ所937-1 電話番号 0553-22-1131

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	平成20年3月6日

## 【情報提供票より】平成20年1月15日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	2人 非常勤 7人 常勤換算 5.6人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2	階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000~40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	■有( 200,000 ) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有( ) 有りの場合 □有 ■無 償却の有無 □無			
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1,160 円			

## (4) 利用者の概要 平成20年1月15日 現在

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	93歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	加納岩病院 つつじクリニック 鶴田歯科医院 廣瀬医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年2月6日

周辺に桃やブドウ畑があり、山が一望でき季節感が味わえる静かな環境の中にある和風民家作りのホームである。運営母体の社会福祉法人は他市で様々な介護サービス事業を展開し、高齢者に対する知識と理解がある。利用者がその人らしく家庭的な雰囲気の中で安心して安全に配慮しながら支援するという理念のもと、管理者、職員が熱い想いでケアに取り組んでいる。ホームとしてリハビリを兼ねて日々取り組んでいる巻紙工作作品の大作を地域の文化祭に出品したり、地域へ介護予防の講師として出向いたり、地域との交流も活発である。家族と利用者、ホーム職員が毎年一緒に一泊の温泉旅行に出かけ、宴会を楽しんだり、絆が深まって

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題である、わかりやすい運営理念の明示、換気や空調を管理する温度計の居室設置、夜間の居室のドアの開放、職員研修の充実は、全て改善にむけた取り組みがなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者及び職員はサービス評価の意義や目的を理解しており、パートを含む職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に対する意欲が伺える。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一度運営推進会議を行い、報告や意見交換を行うことにより、地域とのつながりが深まり、地域での催し物、行事への参加する機会が増え、ホームに閉じこもらず利用者の活動の場が広がっている。行政職員も課題解決には協力的である。委員の構成も拡大し、今後は地域の消防団員が参加する予定となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が参加する行事が年4~5回あり、面会も多く管理者や職員は家族の意見や要望をこまめに聞いている。家族との関係が親密になるにつれ、今後話しにくいことがあることも想定される。家族が行き会う機会もあるので家族会の発足を検討し、家族が意見を出しやすくする工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会には未加入だが、地域の了解のもと地域へゴミ出しを行い、文化祭へ巻紙工作の大作を出品している。地域サロン会で認知症予防講座、口腔ケア教室などを開催し講師を引き受け、地域との交流が深まっている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホームめだかの学校

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で”その人らしさ”を活かし、地域の住民と積極的な関わりを持つ中で、利用者が安心して安全な暮らしを支えるという理念を掲げている。	○	事業所内に掲示されている「理念」について、表示方法等を工夫し、職員や利用者が常に「理念」を意識する中で、地域の中でその人らしい生活の支援を今後も継続して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行う職員会議・毎週行うミニカンファレンス・日々のケアの中で理念について話し合い、実践にむけ取り組んでいる。今後も引き続き、職員全員で理念の共有と実践にむけた取り組みを続けて欲しい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には未加入だが、地域の了解のもと地域へゴミ出しを行い、行事参加はしている。地域サロン会で、認知症予防講座・口腔ケア教室などを開催し、講師を引き受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の意義や目的について話し合いを行い理解を深め、自己評価に取り組んだ。前回の外部評価の改善点であった空調は各居室に温度計を設置し、室温管理し、夜間の居室の開け放しがないようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告や話し合いを行う事により、地域の理解が深まり、文化祭への出展・ふるさと祭りの参加・獅子舞来訪・ボランティアの協力など地域とのつながりが深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの入居に伴い、空き家となった利用者の自宅の水道管が破裂し、市町村職員の協力を要請するなど相談出来る関係となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は面会時には日々の生活の様子を細かく記録した個人記録に目を通し、金銭管理簿に確認のサインをしている。	○	金銭管理報告は不定期であり、利用者一人ひとりの状況により異なる。定期的に利用者全員の家族に暮らしぶりや金銭管理・職員の異動があった場合等の報告がなされることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も頻繁にあり、年4～5回家族が参加する行事があるため、管理者や職員と話しやすい関係にあり意見や相談・苦情を聞いている。また、玄関先に苦情箱が設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職・異動の場合は、理由を事前に利用者や家族にも伝えている。新しい職員が慣れるまでフォローする職員体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート従業者にも研修参加の機会がある。認知症実践者研修・感染症予防研修等に参加し、職員会議で研修報告を行い情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、研修会にも参加している。同一法人のグループホームとの職員交流及び近郊のグループホームより絵手紙ボランティアの紹介等がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に何回かホームに遊びに来たり、家庭訪問を行ったり、馴染みの関係となってから入居している。デイサービスを利用しながら入居に至るケースもある		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のさりげない会話から、聞き取った願いを5つの標語にまとめて掲げ、支えあう関係作りの基礎とし、日々職員と利用者で確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族のさりげない会話や生活歴などの情報をもとに、希望や意向を把握している。情報収集したものをセンター方式のアセスメントシートに職員全員でまとめあげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会議及び毎週ミニカンファレンス時に職員全員で話し合いを行い、介護計画を作成している。家族にも日々の暮らしぶりがわかる個人記録を面会時には必ず目を通してもらい、意見を介護計画に採り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議及び毎週ミニカンファレンス時に、職員が日々気づきを書き込んだメモから意見を出し、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、遠方よりの家族の面会時の送迎など柔軟な対応がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医がおり、家族が受診同行できない場合は職員が支援している。近所に協力医がいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には医療行為が必要になった場合を想定した話し合いをしている。状況に応じてその都度、利用者・家族の意向を再確認をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴・排泄介助時の対応には利用者の羞恥心に対する配慮がある。	○	個人のケース記録簿には大きな氏名が書かれており、利用者の目につきやすい。管理者、職員で個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底を図る工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のやりたい事・やりたくない事に合わせ無理強いはしない。起床・就寝時間も利用者に合わせてゆとりがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは母体法人から送られてくるが、利用者の希望を聞きながらアレンジし、職員と利用者が一緒に楽しみながら調理・食事・後片付けを行い会話も弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前・午後と希望に合わせて入浴を支援している。入浴をしたがらない利用者には一緒に湯加減を見て貰ったり、言葉かけに工夫をし入浴が楽しみとなる支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・調理・食事時の唱和、下膳と利用者が日常生活の中で力量を発揮している。時期になると利用者の指導をして畑で野菜の収穫を行う。年1回家族と共に過ごす泊まりがけの温泉旅行も楽しみごとの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月2回くらい車を利用し近くの足湯やスーパーへ買い物に出かけている。お天気のいい日は近くのゲートボール場・神社・保育園に散歩に出かける支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害は理解はしているが、利用者が何回か徘徊した苦い経験を踏まえ、試行錯誤の結果現状の利用者の状態では安全面からも施錠が必要と判断し、家族の同意のもと施錠している。	○	利用者のその日の様子、職員の勤務体制を考慮し、日常的に施錠するのではなく、職員が目を離さないケアと連携プレーの工夫、また、周辺住民に働きかけ、理解と協力をしてもらい、自由な暮らしを支える鍵をかけない時間帯の工夫を是非検討して頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、日中だけでなく夜間も想定した自衛消防訓練を行い、事前に消防署へも連絡をとり通報、避難誘導経路の確認を行っている。来月より地域の消防団員が運営推進会議のメンバーとして加わる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士が作成するバランスのとれた献立表を目安とし、栄養確保できるよう支援している。通常は利用者全員が完食するので、変化がない場合は記録は行っていない。	○	食事摂取量に変化がある場合は個別のケース記録に記録しているが、職員が利用者一人ひとりの健康状態をひと目で把握出来るよう、健康チェック表に日々の食事摂取量の記録をするなどの工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの居間に居心地の良いソファがあり、季節感のある利用者手作りの巻紙アートが飾られており温かみがある。廊下・浴室・トイレ等に手すりや段差の工夫がある。台所兼食堂は少し手狭だが家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせた手すりを取り付けたベットやソファを入れたり、家族の写真や本人の手作りの物が飾られ安心して過ごせる場づくりの支援がある。また、気温の寒暖による居室の室温調節も、引き続き室温管理をするとともに、利用者の体温調節機能の低下に考慮した、居心地の良い居室の環境整備と維持に努めて欲しい。		